
御使い様と僕

大塚 匠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御使い様と僕

【Nコード】

N7924K

【作者名】

大塚 匠

【あらすじ】

図書室に入り浸り四六時中、本を読んでいる僕はその理由をいつも探していた。そこへ現れたのは天から舞い降りた天使様。無骨なイヤフォンを耳に付け、不思議な語尾で周囲を和ませる彼女と契約をかわしちゃって……。

プロローグ

僕が知識の収集にこれほどまでに執着し始めたのはいつ頃からだろうか。

幼い時分に定かではない記憶ではあるが、小学校入学までは一般的な男子児童であったように思う。

確かに幼心としての知的好奇心というものは他の児童より活発だったという話は親戚からよく聞かされているが、どこにでもいるような他より少し精神的に上なだけの普通のガキだったらしい。

それがいつ、どんな理由で毎日、昼休み・放課後図書室に入り浸って、片っ端から本を読破していくような根暗な少年になってしまったのか自分でも皆目見当がつかない。

しかし、目的も理由もなく知識の収集に励む姿は大人からは勉強熱心と誉めそやされ、同い年の奴らからは奇怪の目で見られた。友人の烏丸連夜曰く僕は

「存在自体が不毛で無用な男だね。」

ということらしい……。ほつとけと言いたい所だが、自分でも自分の性癖に不可思議さは覚えているし、いつも心の片隅に引っ掛かっていることもある。

もしかしたら、喉の奥に深く深く魚の骨が刺さってしまったようなもどかしいこの感覚の理由を知るためというのが、毎日活字の世界にのめり込む理由になっているのかもしれない。

所詮は言葉遊びに過ぎないのだが。

とは言え、僕の図書室通いは高校に入っても情性のように続いていたのである。そう、僕が彼女と出会ったあの日も……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7924k/>

御使い様と僕

2010年10月21日23時33分発行